

としょかん だより

2025.8 No.210

不動技研ながさき市立図書館

〒850-0032 長崎県長崎市興善町1-1
TEL 095-829-4946
FAX 095-829-4948
ホームページ
<https://lib.city.nagasaki.nagasaki.jp/>

ホームページ

公式LINE

電子図書館



Topic

■「救護所メモリアル」

市立図書館が建つ前、この場所にあった新興善小学校（国民学校）。そこは、かつて原子爆弾でけがを負った多くの人々が治療を受けた救護所でもありました。

1階にはこの「救護所」を再現した「救護所メモリアル」があります。平和について改めて考えさせられる場所です。

Information

図書の展示

1階特集展示 一生の物語（～8/30）

特別展示 講演会「図書館で知る・学ぶ・考える 猫と人と長崎のまち」関連展示

2階特集展示 被爆80年 ―今、平和を考える―（～8/30）

特別展示 Hot&Cool 夏を感じる音／物語

長崎歴史文化博物館開館20周年記念特別展「こわ～いおばけ浮世絵」連動展示（～8/24）

図書館ミュージアム 長崎を描いたシーボルトの門人 伊東昇迪^{いとうしょうてき}関連展示

「『ゴヤからピカソ、そして長崎へ 芸術家が見た戦争のすがた』展」長崎県美術館連動展示

YA特集展示 読書感想文におすすめの本

投稿展示 うろ覚えスケッチ

児童特集展示 調べる学習にちょうせん！

ミニ展示 こわーい！ゾゾゾ！おばけ・妖怪のはなし

特別展示 読書感想文におすすめの本

イベント

講演会
「図書館で知る・学ぶ・考える
猫と人と長崎のまち」



猫と人が共に暮らす街・長崎。
保護猫の現状や暮らしについて学べる講演会
を開催します。

【講演内容】

- ①猫との暮らしをもっと楽しくするヒント
- ②猫も人も幸せに！明るい未来の
ライフ＆マネープラン



日 時：9月7日(日)
時 間：14：00～15：30（13：30開場）
場 所：多目的ホール
申込方法：メールまたは1階カウンター
定 員：70名



寄贈紹介



田中児童文庫



公益財団法人田中奨学育成基金様は、青少年健全育成活動の一環として、読書を通して豊かで明るい人づくり社会づくりに貢献したいという趣旨で、昭和55年度から児童書の寄贈が続けられています。

今年度は50冊(8万円相当)の児童書をいただき、寄贈図書の累計は2,782冊になります。

開館状況やイベントの詳細・開催状況は、図書館のホームページ・SNS・館内ポスターをご確認ください。
としょかんだよりの最新号・バックナンバーは図書館ホームページからもご覧いただけます。

BOOKS：被爆80年 長崎から平和を考える

～本を通して被爆の記憶、平和への願いを受け継ぐ～



わたし96歳戦争反対

森田 富美子・森田 京子/著
講談社
G289.1モ(2階原爆)

75年間語らなかった長崎での被爆体験を、91歳でTwitter（現在のX）に投稿し「伝え続ける」と決意した「ハハ」。母娘で被爆当時の記憶を丹念に掘り起こす。飾らない等身大の「ハハ」が、戦争反対と声をあげるに至った現在までの歩みを綴る。



長崎・あの日を忘れない

原爆を体験した目や耳の不自由な人たちの証言

平田 勝政/編著
長崎文献社
G319.8ヒ(4階書庫)

目や耳の不自由な人たちはあの日、どのような体験をしたのか。長年特別支援教育に携わってきた著者が、その証言や事実とともに、長崎県立盲学校・同聾唖学校の歴史をたどりながら後世に被爆実態を伝える。



火のトンネル

岡本 央/写真・文
大月書店
Eオ(平和資料)

長崎市立銭座小学校が2004年から始めたプロジェクト「火のトンネル」。原爆や平和について学んできた児童たちが、6年生の時にその集大成として感じたことや思いを込めた絵画を制作する。この取り組みを多くの人に伝えるため、写真家でもある著者が制作風景を撮影し紹介する写真絵本。



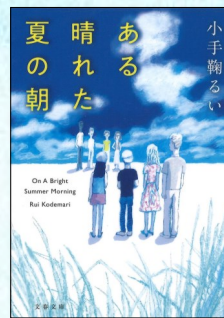
証言 第38集 (2024)

ナガサキ・ヒロシマの声

長崎の証言の会/編集
長崎の証言の会
G319.8シ(4階書庫)

長年被爆者の声を記録・発信し続けてきた「長崎の証言の会」が毎年刊行している証言誌。2024年に第38集を迎えた本書では、5名の証言と、平和を訴える活動の記録、福田須磨子没後50年の特集などが収録されている。原爆による身体的・物理的被害だけでなく、被爆者の心の傷・社会的な苦悩まで、原爆の現実について知る上で欠かせない貴重な資料。

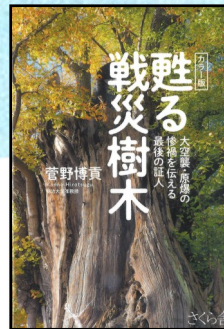
※シリーズは2階原爆に、貸出可能分は4階書庫に所蔵。



ある晴れた夏の朝

小手鞠 るい/著
文藝春秋
B913.6コデ(1階文庫)

広島と長崎に原爆が投下されて数十年後の夏。アメリカ東部のとある町で、ルーツも人種もさまざまな8人の高校生たちが「原爆投下」をテーマに肯定派と否定派に分かれ討論会を開いた。異なる意見を持つ者が互いの立場を尊重しつつも徹底して話し合うことの大切さ、そこから生まれる未来の可能性を瑞々しく描いた青春小説。

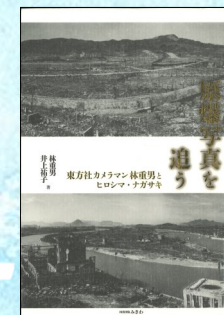


蘇る戦災樹木 カラー版

大空襲・原爆の惨禍を伝える最後の証人

菅野 博貢/著
さくら舎
210.75カ(2階フロア)

戦争の傷痕を抱えながら平和の大切さを生きて伝える「戦災樹木」。長崎をはじめ、全国に残された最後の証人を、樹木の状態や当時の様子とあわせてカラーで紹介。



原爆写真を追う

東方社カメラマン林重男と
ヒロシマ・ナガサキ

林 重男/著 井上 祐子/著
図書出版みぎわ
G210.75ハ(4階書庫)

被爆から二か月後の長崎・広島の様子を撮影し、写真と語りによって、原爆被害の凄まじさと非人道性を伝える。撮影者である著者の体験とその後の活動など、平和への思いを綴る一冊。